

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	山 口 県
-------	-------

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	下関市立 長 成 中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	4	1	13	23
生徒数	125	129	132	2	388	

研究の概要

1. 研究主題

<p>一人ひとりの個性を生かす授業の工夫 (少人数指導をとおして)          ~ 共に認め合い高め合う人間関係づくりの支援 ~</p>
---

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<p><b>【3年生・数学】</b></p> <p>中学校の入学段階で、習熟度に大きな差が付きやすい数学科で、その習熟度に応じた個別指導が必要になると思われる。数学科の少人数授業は、平成13年、14年と実施しており、研究の成果や実績の蓄積がある。          TTについても継続的に研究を進めていきたい。</p> <p><b>【2・3年生 選択教科】</b></p> <p>2年生では、7教科11コース、3年生では、9教科23コースと可能な限り選択履修幅を拡大し、生徒の実態と希望に応じたコースを開設している。          内容についても発展的な学習や補充的な学習を取り入れ、さらなる教育的効果を期待している。</p>
---

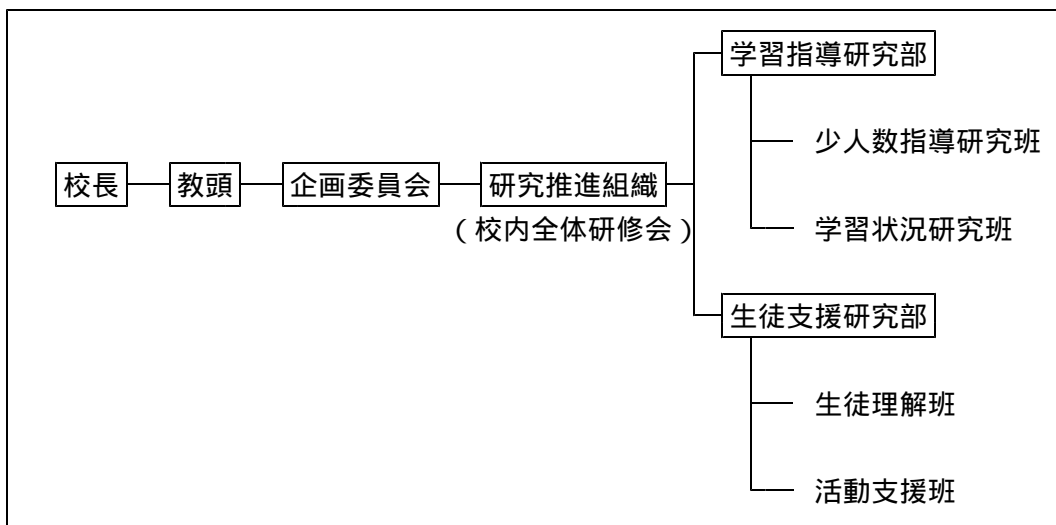
(2) 年次ごとの計画

平成 15 年 度	<p>研究課題（一年次）</p> <p>学力向上フロンティア事業に向けての校内体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 研究仮説の決定</li><li>・ 研究組織及び各研究部の行動目標の決定</li><li>・ 各研究部の具体的行動実践の考察</li></ul> <p>研究仮説</p> <p>学びの環境として、共に認め合い高め合う人間関係づくりを基盤とし、一人ひとりの個性や能力が生かされる授業を展開すれば、生徒は主体的に学び確かな学力が定着するであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>二つの研究部に分かれ、それぞれの研究部でさらに二つの専門研究班を組織する。各研究部が研究小仮説を立て、その仮説の検証のために試験的な試みを実施し、アンケート調査や生徒の自己評価等を活用しながらデータを分析する。その後、それらの資料を基に本校生徒の実態を客観的にとらえ、本校で出来ることやするべきことを整理していけば、学力向上フロンティア事業に対する具体的な取組や全校体制が確立していくと思われる。</p> <p>学習指導研究部</p> <p>《研究小仮説》</p> <p>個々の能力や理解力に応じたきめ細やかな指導を通して、わかる授業や創造する楽しさを実感できる授業を工夫すれば、学習意欲が喚起され自ら学ぶ態度や確かな学力が身につくであろう。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 少人数指導研究班</li></ul> <p>レディネステストを実施し、予め生徒の基礎的な学力を把握する。その後、生徒の理解力や習熟度の程度を参考に4クラスのそれぞれを2コースに分ける。生徒の希望を最優先し、決めかねている生徒には数学科の教員が相談にあたる。いくつかの小单元ごとに理解度を確認するための小テストを行い、基礎・基本の定着をめざす。<li>・ 学習状況研究班</li><p>家庭学習を含めた生徒の学習状況を把握するためにアンケート調査を実施する。本校の生徒の実態を数値的にとらえ、改善すべき点、指導すべき点、賞賛すべき点などを分析し、全校体制で取り組む共通指導事項の提案推進をめざす。</p><p>週五日制の有効活用も視野に入れて研究を進める。</p></p>
--------------------	--

	<p>生徒支援研究部 《研究小仮説》</p> <p>学校生活において、共に学ぶ機会や認め合い高め合う場面を多く設定できれば、より良い人間関係が生まれ、自己肯定感を味わえ主体的自立的に行動しようとする態度や実践力を身につけていけるであろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒理解班 <p>本年度、構成的グループエンカウンターを全校体制で定期的を実施し、その成果や評価を検討研究する。</p> <p>また、教育相談の充実をめざし、解決志向ブリーフセラピーの手法も検討実践研究する。</p> </li> <li>・活動支援班 <p>学校行事ごとに生徒アンケートを実施し、その分析から行事の見直しや生徒の主体性を育てる手だてを発見する。生徒自らが積極的に行事に関われるように適切な実践支援を講じ、成就感や達成感を味わわせる。</p> </li> </ul>
--	--

平成16年度	<p>研究課題</p> <p>各研究組織の活動の見直しや研究小仮説の検証方法の確立 二年間の研究の集録作成及び周辺地域への啓発</p> <p>研究仮説</p> <p>一年次の活動を基本に、各研究部ごとに研究実践されてきたデータをそれぞれ分析し、各部の連携をとりながら全校体制として取り組めば、予想する成果が期待され研究内容が具現化するであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>各研究部の一年次の活動の発展継続 管区内の少人数授業を中心とした数学科の研究授業発表 二年間の研究集録を作成し、管区内への報告啓発</p>
--------	---

### (3) 研究推進体制



#### 平成15年度の研究の成果及び今後の課題

##### 1. 研究の成果

少人数授業の実施について、生徒のアンケート調査によると基礎クラスで81%、応用クラスで96%、全体で89%の生徒が良かったと回答している。さらに、数学科の学力が伸びたかという問いには、全体で67%の生徒が伸びたと実感している。その理由として、一人ひとりが自分に合った方法で丁寧に教えてもらった、わかるまで教えてくれた、授業がわかりやすくなったので家で復習する習慣が身についてきたという内容等であった。その他の項目でもかなり高い評価が出ているので、少人数授業の方向性は正しいと確信し、今年度の問題点を改善しながらきめ細かな指導を実施していきたい。

##### 2. 今後の課題

###### 少人数授業指導

- ・習熟度別クラスの編成を平成14年度、平成15年度にわたって熟慮試行してきたので、次年度は、習熟度別3コースの試行も視野に入れ、学力向上に向けての方法を実践していきたい。
- ・習熟度別指導における適切な課題の設定や指導技術の向上
- ・数学科の教員の出張時の代替授業および課題の考察
- ・定期テストの出題内容における適切かつ公正な選択問題の導入
- ・いくつかの小単元をまとめた内容に関する小テスト問題の適性化を考察
- ・適正な評価の継続研究

###### 選択教科

- ・学習内容、教材開発の検討（補足的・発展的）

学力把握のための学校としての取組

数研式標準学力検査集団基準準拠テスト（全学年）	年1回	4月
数学科による観点別学力把握テスト （クラス分けを目的にしたレディネステスト）	（3学年）	年1回 4月
数学科による小单元ごとの小テスト	（3学年）	年5～8回 随時

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- |                               |                 |
|-------------------------------|-----------------|
| ・少人数授業指導の公開授業                 | （平成15年12月8日 実施） |
| ・学力向上フロンティア事業【一年次】の研究集録の作成 配布 | （年度末予定）         |
| ・地区協議会                        | （平成16年1月28日 実施） |

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校
- 【学校規模】  3学級以下  4～6学級  
 7～9学級  10～12学級  
 13～15学級  16学級以上
- 【指導体制】  少人数指導  T・Tによる指導  
 その他
- 【研究教科】  国語  社会  数学  理科  
 外国語  音楽  美術  技術・家庭  
 保健体育  その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無